

それから何日か経った週末、セレナはポイプビーチの石段に立って海を眺めていた。海は色とりどりで、浅い所と深い所の色合いが違う。波の音は^{せんりつ}旋律があるようでそうではない。海をじっと見つめていたセレナは、波の音に耳を傾け、初めて自然の力を感じることができた。

「今日の海はとても美しいね」

ミスエンジェルの声がセレナの耳に聞こえてきた。セレナは好奇心を^{おさ}抑えきれず、尋ねた。

「ミスエンジェル、あなたは誰？そろそろマスクを取ってくれない？」

「まだダメ」

